



令和3年8月3日(火)

# 長崎県内経済情勢報告

令和3年8月

財務省福岡財務支局 長崎財務事務所

〔問い合わせ先〕

財務省 福岡財務支局

長崎財務事務所 財務課

TEL 095-827-7095

FAX 095-811-7030

## 1. 総論

### 【総括判断】

「県内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

項目	前回（3年4月判断）	今回（3年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	→

（注）令和3年7月判断は、前回4月判断以降、足下（7月末）の状況までを含めた期間で判断している。

### （判断の要点）

個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、一部に底堅さがみられるものの、感染症の影響により、弱い動きとなっている。

### 【各項目の判断】

項目	前回（3年4月判断）	今回（3年7月判断）	前回比較
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	→
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→
雇用情勢	一部に底堅さがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	一部に底堅さがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	→
設備投資	2年度は減少見込み	3年度は増加見込み	→
企業収益	2年度は減益見込み	3年度は減益見込み	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	→

### 【先行き】

先行きについては、感染拡大の防止策を講じ、ワクチン接種を促進するなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、感染の動向が内外経済に与える影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売額は、飲食料品は前年を下回っているものの、衣料品は前年を上回っていることなどから、全体として前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売額は、前年を上回っている。

家電大型専門店販売額は、前年を上回っているものの、ドラッグストア販売額、ホームセンター販売額は、前年を下回っている。

乗用車新車登録・届出台数は、前年を上回っている。

観光は、主要観光施設の入場者数・主要地区の宿泊者数をみると、前年を上回っているものの、感染症の影響により、修学旅行者や観光客は低迷している。

(主なヒアリング結果)

- 催事の開催等により、売上は大きく落ち込んだ前年を上回ったものの、県独自の緊急事態宣言等の影響により、来店客数は減少した。宣言解除により、客足は戻りつつあり、業況は持ち直しつつある。(百貨店・スーパー)
- 巣ごもり需要も落ち着き、売上は前年を下回っているものの、コロナ禍前と同水準で堅調に推移している。(百貨店・スーパー)
- 感染症再拡大や県独自の緊急事態宣言の影響により、入館者は減少し、特に飲食店の売上は大幅に減少した。宣言解除後は、徐々に人の動きが戻り、衣料品や生活雑貨などの売上は増加しているものの、回復はやや鈍い。(複合商業施設)
- 感染症再拡大に伴う緊急事態宣言等の影響により、5～6月は、修学旅行が延期やキャンセルとなったほか、個人客も減少し、厳しい状況が続いている。宣言解除後も修学旅行や一般客の動きは鈍い。(宿泊)
- 7月から県民向けの宿泊割引が再開され、予約件数は増加しているものの、前年同時期ほどの勢いはない。感染リスクの懸念から、一部で近隣地への変更や日程短縮により、修学旅行をキャンセルする動きがみられる。(宿泊)
- 5月以降は、感染症再拡大の影響により、修学旅行者がキャンセルとなるなど、入場者は再び大幅に減少した。6月下旬から入場者は徐々に持ち直しているものの、コロナ禍前の5割以下の水準である。(娯楽)
- 4月中旬以降、感染症再拡大や県独自の緊急事態宣言等の影響により、観光客だけではなく一般の利用者も減少した。宣言解除後は、高校総体が開催され学生の利用者が増加するなど、業況は少しずつ改善している。(水運)

### ■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

生産活動を主要業種でみると、電子部品・デバイスは、半導体需要の拡大により、持ち直している。はん用・生産用機械は、厳しい受注環境が続いており、生産高は減少傾向にある。大手造船は、受注残は減少傾向にあるものの、一定の操業を維持している。

- 半導体製造装置などの産業機器向け、空調等の生活家電など、全般的に受注が増加しており、生産はフル操業となっている。(電子部品・デバイス)
- 通信関連・自動車向けなどを中心に広範囲で需要拡大が継続しており、受注・生産量ともに増加し好調であることから、引き続き人員面・設備面の能力拡充を進める。(電子部品・デバイス)
- 受注環境は厳しい状況が続いており、今年度の生産高は前年度比漸減する見通し。(はん用・生産用機械)
- 昨年は新造船の商談が停滞していたが、受注は徐々に回復している。中国・韓国との価格競争など、厳しい受注環境は続いている。(造船)

■ **雇用情勢** 「一部に底堅さがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている」

有効求人倍率は底堅く推移しているものの、**新規求人数及び新規求職者数**は前月を下回っており、雇用情勢は新型コロナウイルス感染症の影響により弱い動きとなっている。

- 宿泊客の減少により、ホテルの休業中は、雇用調整助成金を活用しているほか、シフトを調整するなどして従業員の雇用を維持している。(宿泊)
- 業績が悪化したことなどから、今年度の新規採用は見送った代わりに、即戦力を確保するため、アルバイトを準社員に昇格させて対応した。(小売)
- 建設業では、新幹線長崎ルートや出島メッセ長崎等の駅周辺開発により、引き続き求人が増加している。(労働局)

■ **設備投資** 「3年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」3年4-6月期

3年度の設備投資額(ソフトウェア投資額を含む、土地購入額を除く)は、製造業は前年比74.8%の増加見込み、非製造業は同17.7%の増加見込みとなっており、全産業では同54.2%の増加見込みとなっている。

■ **企業収益** 「3年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」3年4-6月期

3年度の経常利益(「電気・ガス・水道業」及び「金融業、保険業」を除く)は、製造業は前年比32.1%の減益見込み、非製造業は同134.9%の増益見込みとなっており、全産業では同15.7%の減益見込みとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を上回っている」

新設住宅着工戸数でみると、前年を上回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査(3年4-6月期)の景況判断BSIでみると、3年4-6月期は、引き続き「下降」超となっている。先行きについては、3年7-9月期は、引き続き「下降」超の見通しとなっている。
- 公共事業を公共工事前払金保証請負金額(3年度累計)でみると、前年度を下回っている。